



Walk with Children めぐる



せいび

189号
2023年4月

「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れなければならない。」

(ルカ5章38章)

校長 シスター 小島 理恵

2023年、本校は設立69年目に入りました。70周年を迎える一年前に校名が変更し新しい歴史の一步が刻まれます。

目黒星美学園小学校からサレジアン国際学園目黒星美小学校へ！

「国際学園」という名称から、新しいことが始まりそうだと期待も膨らんでおられることと思います。これまで大事にしてきた「心の教育」は変わらず、教育の根幹をなすものとして位置付けていますが、それに加えて、今後は言語教育にもさらに力を入れてまいります。

新しいことを始める時には、変えていかなければならない部分も必然的に出てまいります。この新しい歩みを始める今こそ、保護者の皆様のご理解とご協力が欠かせません。学校が大切にしている「家族的雰囲気」、そして、保護者の皆様と学校とが一つの心で子どもの教育に邁進していくこと、これを今後も継続していくため、どうぞお力をお貸しください。よろしくお願い申し上げます。

この一年が、神様の祝福に満ちた年になりますように！

コンネッショナー
Conessione

～つながり～

「Conessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。
そこで、ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。



最も小さな者の一人にしたことは、わたしにしたのである

ヨハネによる福音書 25章40節

6年生の門出を祝う卒業ミサが3月に行われました。ミサの中で、神父様が6年生のためのはなむけの言葉としてくださったお説教の中で、トルストイがつけられた「靴屋のマルチン」のお話をしてくださいました。

冒頭の聖書箇所は、この世の終わりに、人の子、つまりイエス様が再び現れ、天使たちを従え、「最後の審判」をするという箇所です。つまり、天国に入る者と地獄に落ちる者とを分けられるというのです。恐怖さえ覚える内容です。これを、トルストイが分かりやすくしてくださった「靴屋のマルチン」。

神父様は、星美で過ごした6年生が、小学校生活を通して学んできたことの象徴として、この聖書のお話をしてくださったのだと思います。自分のためではなく、人のため、特に貧しい人、苦しんでいる人達、弱い立場の人達、病にある人達、そのような人達の中に神様はいて、そのために善い行いをすることが、自分の喜びとなっていくのでしょうか。神様がこれから始まる1年間の小学校生活を通して、天の国へ星美の子たちを導いてくださいますようにお祈りしています。

新年度が始まりました

令和5年度が始まりました。新しい校名の正門が、進級に胸をはずませ、喜びに満ちた子ども達を迎えてくれました。

今年度も子ども達の健康と安全に気を付けながら、周りの人たちへの感謝と喜びを持って過ごしていきたいと思います。4月は新しい先生や友達と出会い、たくさんの喜びが待っています。

学校行事も少しずつ実施することができ、日々の生活に活力と潤いがあふれることと思います。

校報「せいび」では、学校の行事の意義や笑顔あふれる子ども達の生き生きとした姿などを伝えていきます。

今年度もどうぞよろしくお願いたします。



今年度新しく入った教職員

今年度奉職した教職員です。新たな仲間と共に、愛情を持って子ども達に接していきます。全校保護者会にて、改めてご挨拶させていただきます。

(担任)

はじめまして！子ども達と一緒に元気よく楽しくたくさんのお話を学んでいきたいです。よろしくお願いいたします。

(担任)

子ども達と元気に遊んだり、歌を歌ったりすることが楽しみです。よろしくお願いいたします。

(担任)

新しい出会い、これから始まる子ども達との時間にワクワクしています。笑顔と感謝を忘れずに日々を過ごしていきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

(宗教科)

はじめまして！趣味は旅行です。みなさんとたくさんお話したいので見かけたら声をかけてください。

(宗教科)

みなさんと楽しく宗教の勉強ができたなら良いなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(音楽科)

喜びあふれる学校生活となりますよう誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

(英語科)

子どもたち一人ひとりのことをよく知り楽しく有意義な授業ができるよう全力を尽くします。どうぞよろしくお願いいたします。

(英語科)

子ども達から元気をもらって私も元気よく頑張ります。一緒に楽しく英語を学びたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

(英語科)

Hello Everyone. It's nice to meet you! I am from Australia. Let's enjoy English together.

卒業証書授与式

3月16日

令和5年3月16日（木）第64回卒業証書授与式が行われました。当日は卒業生を明るく送り出してくれるような気持ちのよい日でした。卒業生111名が、堂々とした姿勢で式に臨み、立派に巣立っていきました。その日に読まれた卒業生代表の答辞を紹介します。

卒業の言葉

6年前の4月、僕は目黒星美学園小学校に入学しました。父と母に手を引かれ、喜びよりも大きな不安を抱えながら、学校の門をくぐったあの緊張感は、今でも忘れていません。事務室の前で自分の名前を告げると、僕よりも大きな6年生のお姉さんが、いろいろなことを教えてくれました。そして、教室に入ると、担任の先生が優しく話しかけてくださり、緊張感がほぐれてきました。

少しずつ学校に慣れてきて、初めての運動会。チェッコリの音楽と共にみんなで競った玉入れ。パイレーツオブカリビアンを使ったダンスは少し恥ずかしかったけれど、終わった後の拍手がとても嬉しかったことを覚えています。また、5、6年生のお兄さんたちの迫力のある組体操を見て、自分もかっこいいお兄さんになりたいと、憧れを抱きました。

3年生にもなると、友達も増え、不安なく楽しい学校生活を過ごすことができるようになっていました。

忘れることのできない思い出は、ゾントックでの合宿です。3泊4日、友達と一緒にプールで泳いだり、創作活動をしたりしました。友達と過ごす中で、協力すること、楽しく活動することを、体験から学ぶことができました。

しかし、楽しかった日々は、2月26日を境に一変します。新型コロナウイルス感染症の流行です。僕たちは、様々なことを我慢せざるを得ない状況になりました。休校となったので、そのまま4年生になり、友達と会えないさみしさ、悲しさがどんどんつのっていきました。学校に行ってもドッジボールがしたい。友達とおしゃべりがしたい。そんな当たり前の毎日がどれだけ大切なものだったのか、強く感じる期間でした。

休校が明けると、感染対策で今までのような生活はできませんでしたが、先生方が僕たちのことを考えてくださり、できる限りのことを精一杯してくださいました。そのおかげで、少しずつできることが増えていき、サレジオ教会のグラウンドでの運動会、みんなで歩いた高尾山、一つひとつの行事が特別で、とても嬉しい思い出となりました。

そして僕たちは、最高学年になりました。ペアの子が緊張しないように、優しく、丁寧に接しました。後からもらった手紙には「お兄さんのようなかっこいい6年生になりたい」と書いてありました。僕が1年生の頃に憧れた6年生に、少しずつ近づいているのかと思うと、少し照れくさかったけれど、とても嬉しかったです。その手紙は、今でも大切にっています。

6月の美ら島学校は、直前まで本当に行けるかどうか、不安でした。その分、沖縄でみんなと過ごす日々は最高に嬉しかったです。大石林山をみんなで歩きながらいろいろな植物を見たり、笑い合ったりする中で、どんどん仲を深めていきました。しかし、美ら島学校は楽しさだけではありません。現地で戦争の歴史を学ぶことを通して、争うことの残酷さ、命の尊さを感じることができました。そして、神様から与えられたかけがえのない命を大切に生きていこうと、強く思うきっかけにもなりました。

6年間、友達や先生との関わりの中で、協力すること、感謝することの大切さに気付くことが多くありました。それらの繰り返しの中で、正しい判断をすること、善い行いをする、そして、人のために力を使うことが僕の中で当たり前の心地よさになってきました。それは、目黒星美には神様の教えがあったからだと思います。宗教の授業だけではなく、日々のお祈りや宗教行事から学んだことは、間違いなく僕たちの道しるべになると信じています。

そして今、僕たち64期、111名は、卒業します。いつも僕たちのことを優しく笑顔で見守ってくださった校長先生、たくさんお祈りしてくださったシスター方、いつも僕たちのことを考え、時には厳しくご指導してくださった先生方、僕たちを毎日元気に送りだしてくれたお父さん、お母さん、本当にありがとうございました。そして、僕たちを導いてくださる神様、マリア様、ドン・ボスコ。数えきれない多くの方々を支えられながら、僕たちは目黒星美学園小学校から羽ばたいていきます。中学生になっても、目黒星美で培った「思いやりの心」「たゆまぬ努力」「清い心」の3つをいつも心に、人のために自分の力を使える人になれるよう、努力していきたいです。

第64期卒業生代表